

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

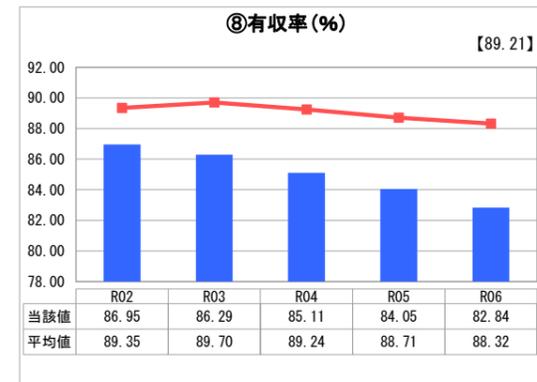
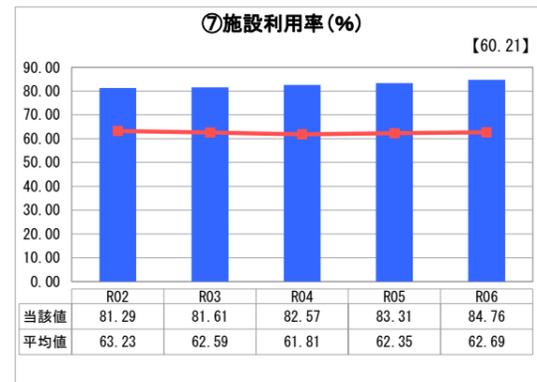
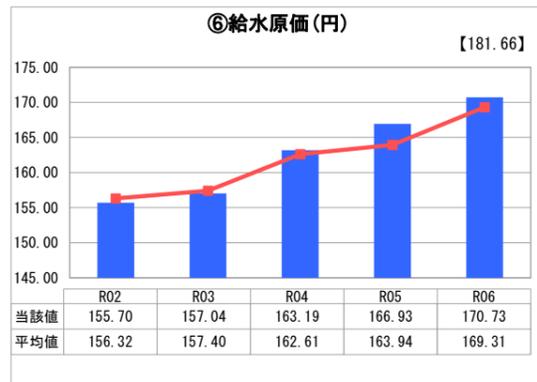
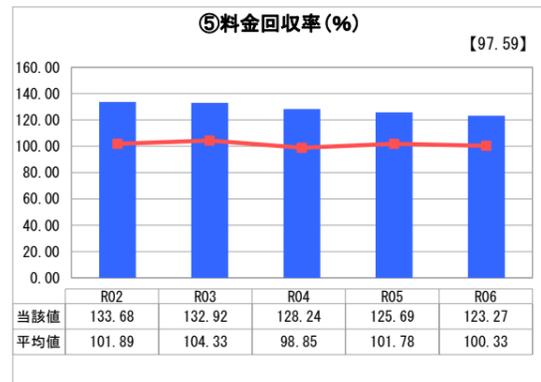
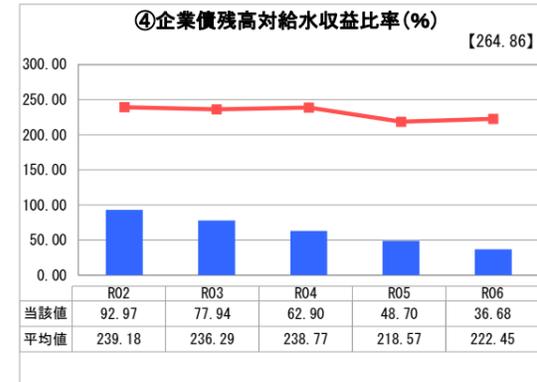
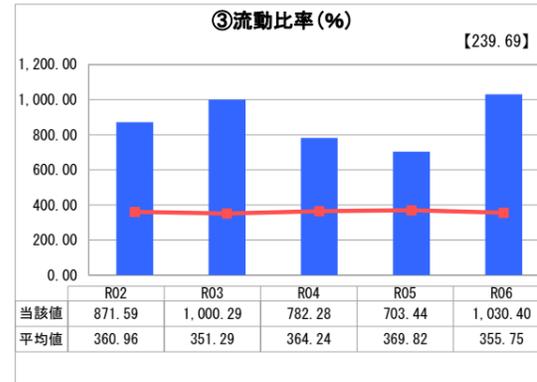
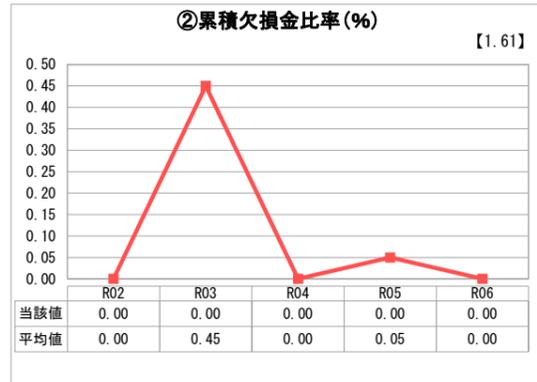
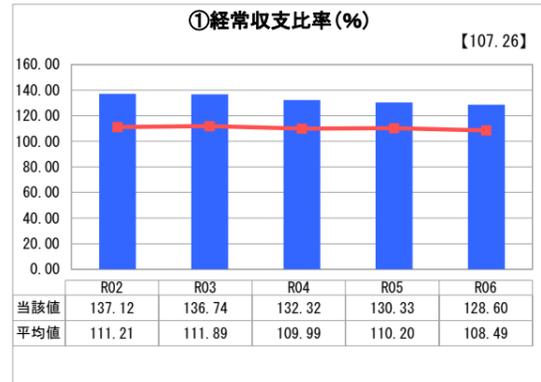
長野県 佐久水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	91.70	75.97	3,685	

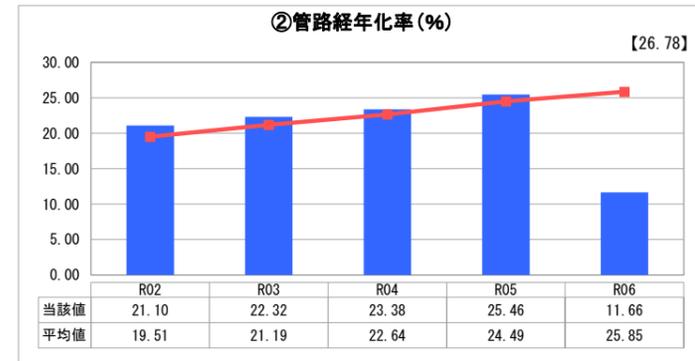
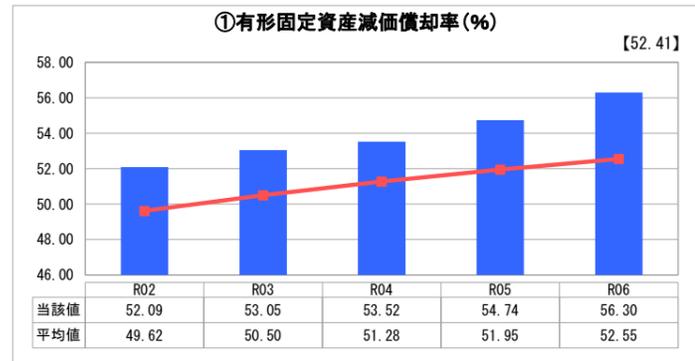
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
116,252	171.45	678.05

グラフ凡例		
■	当該団体値(当該値)	
—	類似団体平均値(平均値)	
【	令和6年度全国平均	

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は100%を超え、収益が費用を上回っており、黒字経営と言えます。
- ② 累積欠損金比率は0%で、営業活動による損失がないことを示します。
- ③ 流動比率は高い水準にあり、短期的な支払能力が十分ある状況と言えます。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、過去に繰上償還をしたことにより低い比率となっており、企業債の新規発行をしていないため、年々減少しています。
- ⑤ 料金回収率は100%を上回り、水道料金収入で経費が賅っている状態にあります。
- ⑥ 給水原価は、施設の老朽化に伴う修繕費用の増加及び動力費の増加、施設更新による減価償却費の増加等により、増加しています。
- ⑦ 施設利用率は類似団体と比較しても高い利用率であり、効率的に施設を利用できていると言えます。
- ⑧ 有収率は類似団体を下回っており、年々減少傾向にあります。漏水箇所発見のため、令和6年度は、衛星画像解析による漏水調査を行いました。令和7年度は、解析結果を基に実地調査を行う予定です。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、類似団体を上回っていることから、更新が必要な水道施設が多いと言えます。施設数も多く、老朽化も進んでいることから、随時、老朽化した施設の更新を進めておりますが、今後も将来の水需要を踏まえながら、計画的な更新に努めてまいります。
- ② 管路経年化率は、管路延長の算出方法を見直したことにより減少となりました。
- ③ 管路更新率は、令和3年度から、老朽施設の更新及び新水源の開発、新配水池の建設、それに伴う管路新設に事業が注力したことにより低下していません。令和7年度も、引き続き新配水池建設等の事業を継続して行うため、類似団体より低い数値となることが予想されますが、一連の開発事業が完了次第、管路の更新に注力してまいります。

### 全体総括

経営の健全性と効率性については概ね良好な状態にありますが、人口、水需要の減少により今後給水収益の減少が懸念されるなか、老朽施設の更新や耐震化は喫緊の課題であり、事業実施には多額の資金需要が見込まれるため、経営は厳しくなるものと考えられます。加えて、昨今の物価高による建設資材の高騰や人件費の増加などから、財源確保のため更新計画の見直し等も必要となっております。また、水道事業に携わる人材の高齢化も進んでおり、人材確保も大きな課題となっております。

このような状況から、令和6年度末にアセットマネジメント策定を委託しており、今後はその結果を踏まえ、事業の見直しや経営の効率化等の検討を進め、将来に渡る安定供給のため、健全経営に努めてまいります。